教育学部の金武李佳さんがアメリカで開かれた「模擬国連」でモロッコ大使として議論・交渉！

平成25年3月26日(火)～29日(金)

岐阜大学 教育学部
生涯教育課程4年
金武 李佳 さん

上／会議後に開催されたパーティーには、浴衣姿で参加。「会議と違って緊張も解け、互いの国のことや勉強の仕方など、話が弾みました」。
下／動議や発議を意味する「Motion!（モーション)」と言って挙手すると、議長から10分間の発言が許可されます。

ニューヨークで開催された「New York Global Young Leaders Summit International Model United Nations 2013（通称：模擬国連)」に、教育学部の金武李佳さんが参加しました。

国際問題への理解や交渉術の深化を図ることを目的とする模擬国連。世界各国から学生約500人が集まりました。全員がある国の大使の役割を演じ、担当国の政策や歴史、外交関係などに照らし合わせて、実際の会議と同様、特定の議題について議論・交渉します。モロッコ大使役に任命された金武さんは、「開発資金の運用」「エイズと貧困の関係」「情報コミュニケーション技術の活用」の3つの議題に対して、モロッコ王国としての声明文をまとめ、会議に挑みました。

「昨年の12月から英語やモロッコ経済の勉強、声明文の準備を始めました。現在の政府の見解を知るために、同じモロッコ大使役の九州大学大学院の学生と、東京のモロッコ大使館を訪問。外交官の方と直接お会いするとお話が心に入ってきて、政府が強く推している取り組みが分かりました」と金武さん。こうした経験から声明文には、若者が仕事に就けるよう、教育のインフラ整備を行うことを盛り込みました。

「出発前日は正直不安でしかなかったんですが、絶対にがんばろうと思いました。会議はすごくスピードが早かったのですが、分からないことがあったら割って入って『どういう意味ですか？』と聞き、その上で自分の意見を伝えるよう努力しました。世界各国の人々と知り合うことで“日本とそのほかの国”という見方が、“ほかの国の中に日本がある”という捉え方に変わりましたね」。

8月からは交換留学生として米国サンディエゴ州立大学で心理学を学び、臨床心理士を目指します。「数年は外国で働きたいです。日本では気がつかない何かを発見できると思うから」。新たな将来像を見据えた金武さんは、「世界の友人と話ができてとても幸せでした！」と満面の笑顔で振り返っていました。

保育園児がハロウィンの仮装で学長を訪問

平成24年10月31日(水)

ハロウィン当日、直営保育園「ほほえみ」のつばめ組（2歳児)・はくちょう組（3・4・5歳児）の27人が仮装をして学長室を訪れました。カボチャのマントや黒猫の耳などを身に付けた園児は「トリック・オア・トリート（Trick or Treat ?)」と元気よく入室。出迎えた森学長と林副学長、八嶋理事、吉村理事がお菓子を配ると、園児たちは手作りのお菓子箱をいっぱいにさせて満面の笑顔。和やかなひと時となりました。

第64回 岐大祭を開催 テーマは「ブレイク」

平成24年11月1日(木)～4日(日)

「岐大祭」は学生の正課研究、学術文化活動及び課外活動の祭典です。年間を通した取り組みの成果を学内外に発表し、より発展させる機会として、毎年、学生が自主的に企画・運営しています。今年のテーマは「ブレイク」。「憩いの場になってほしい、日常から踏み出してほしい」という願いが込められています。当日はみこしまつりやコスプレコンテスト、お笑いライブ、スポーツ大会などが開かれ、盛況のうちに終了しました。

平成24年度 学位記授与式を行いました

平成25年3月25日（月）

長良川国際会議場において平成24年度学位記授与式を行い、学部学生1,281人、大学院学生538人が卒業・修了しました。森学長は「日本の未来は皆さん方の活躍にかかっています。厳しい状況においても希望を捨てず、生き抜くたくましさを持ってください」と言葉を贈りました。卒業生代表の教育学部の山形明里さんと修了生代表の連合創薬医療情報研究科の浜田奈々子さんはそれぞれ「子どもたちの心に寄り添う教師を目指したい」「逆境に屈せず、未来を切り開いていきたい」と力強く決意を語りました。

「多様性活力発揮に向けての女性研究者支援」総括シンポジウムを開催

平成24年12月5日（水）

「多様性活力発揮に向けての女性研究者支援」総括シンポジウム「男女共同参画大学の実現に向けて―女性研究者支援事業から男女共同参画推進活動へ」を開催し、学内外から約150人が参加しました。基調講演では三重大学人文学部特任教授で前女性研究者支援室長（学長補佐）の小川眞里子氏が「女性研究者の現状：世界・日本・三重」と題して講演。また、男女共同参画推進室の三宅恵子特任准教授、松藤淑美特任助教、松井真一特任助教が、2年半にわたる事業の取り組み成果の報告などを行いました。

第34・35回 岐阜大学フォーラムを開催しました

平成24年11月15日（木）・12月7日（金）

岐阜大学では一流の研究者の講演会を定期開催しています。11月15日（木）の第34回では、哲学者でNPO法人森づくりフォーラム代表理事の内山節氏が、人間と自然の関係や東日本大震災における津波や原発事故の災禍について講演。12月7日（金）の第35回では、東京大学大学院理学系研究科教授の早野龍五氏が、放射線に関する情報発信や内部被ばく、外部被ばくの調査を通して見えてきた原発事故の影響について語られました。

環境マネジメントシステム（ISO14001）の認証範囲が拡大

平成24年12月18日（火）

岐阜大学は平成21年11月に環境ユニバーシティを宣言し、環境に配慮した大学運営を行っています。これまでに大学本部、図書館、教育学部、附属小・中学校、地域科学部が、環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得。更新審査・拡大審査を受け、平成24年12月18日（火）には新たに医学系研究科・医学部、応用生物科学部が認証を取得し、平成25年1月29日（火）に審査登録証の授与式が行われました。

第11回 岐阜大学学生企業展を開催

平成24年12月8日（土）・9日（日）

有志の学生が企画・運営する、今年で11回目となる「学生企業展」が開催されました。2日間でおよそ1,200人の学生が来場し、参加企業194社の中から目当てのブースを訪問しました。

近年の不況によって学生の就職活動、企業の採用活動は依然として厳しくなっています。そのような中で学生たちの就職意識は高く、企業ブースでは開場から終了時刻まで真剣に説明を受ける姿が多く見受けられました。

平成25年度 入学式を行いました

平成25年4月7日（日）

長良川国際会議場において平成25年度入学式を行い、学部学生1,319人、大学院学生562人が入学しました。森学長は学部入学生には「立派な社会人になるべく、勉学に励んでください」と言葉を贈り、大学院入学生には「他者からの研究評価を恐れずに自分を信じて研究を進めてください」と激励しました。学部入学生代表の伊藤華奈子さんは「国際社会の一員としてたくましく生きる力を育みたい」と語り、大学院入学生代表の砂場昭吾さんは「真理を探究し、見識を高めたい」と宣誓しました。

大学構内でイルミネーションが輝く

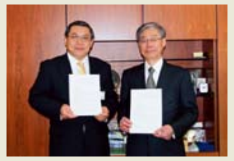
平成24年12月6日（木）～25日（火）

昨年12月、岐阜大学の正面から丸池へと続く並木道が幻想的な青い光に彩られました。このイルミネーションは、サークル「イルミネーション実行委員会」が、「地域の方に岐阜大学を知ってもらいたい」という思いから企画。資金集めから実行までを、各学部自治会の学生や教職員などに協力を呼びかけ、実現しました。また、大学入試センター試験日や前後期日程入学試験日にも点灯し、受験生を応援しました。

応用生物科学部と岐阜県健康福祉部生活衛生課が連携協力に関する覚書を締結

平成25年2月28日（木）

応用生物科学部において「岐阜大学応用生物科学部と岐阜県健康福祉部生活衛生課との連携協力に関する覚書」の締結式が挙行されました。応用生物科学部の金丸義敬学部長、岐阜県健康福祉部生活衛生課の樋口行但課長のほか総勢7人が出席。この締結は狂犬病の診断など、獣医公衆衛生学分野で両者が有する知的、人的、物的資源について連携協力することが目的です。公衆衛生学分野全体としての覚書締結は、獣医系大学のある都道府県では初の取り組みです。



応援奨学生決定通知書交付式を実施

平成25年4月8日（月）

岐阜大学基金事業の一環で、応援奨学生制度を実施しています。この度、平成25年度の奨学生19人が決定し、決定通知書交付式が行われました。森学長から決定通知書が交付されると、工学部の清水大輔さんは「奨学金を有効に活用し、勉学や研究に励みます」と抱負を述べました。この制度は、人物及び学業成績において優れ、他の学生の模範となる学生に奨学金を支給し、優れた人材を育成するものです。

岐阜大学みず再生技術研究推進センターを開所

平成25年4月9日（火）

財団法人岐阜県環境管理技術センターと連携し、「岐阜大学みず再生技術研究推進センター」を開所しました。センターの目的は、浄化槽などの分散型汚水処理施設の機能向上や、それらの放流先水路及び受容水域の水質向上につながる調査研究の推進です。森学長は開所式で「環境科学において社会貢献していきたい」と挨拶しました。